

市長がによぜがもん掲載記事「モノよりコト」で話された、新しい価値観について政策秘書課職員に話をした内容です。

おおらかさとは

私の知り合いが、今度、古民家の土壁を直すのですが、このやり方が面白いのです。普通なら、左官屋さんにお金を払って、キッチリと直してもらうところですが、この方はチラシを作って参加者を募集し、お金を払うどころか、逆に参加者から参加費を取って、土壁を直す事をイベントにしてしまうやり方なのです。

以前、によぜがもん「モノよりコト」というテーマで、経験や体験など心の充足を皆が求めるようになってきたとお話ししましたが、このイベントもそんな時代の流れと価値観の変化から生まれた、新しいやり方だと感じました。

このことを職員に話したところ、「市長の知り合いは、随分おおらかな方ですね」と言われ、その意味がわかりませんでした。なぜそう思うのか聞き返したところ、素人を集めて直してもらっても、きっとひどいできばえになってしまう、おおらかな性格じゃないと仕上がりに満足しないのでは、と言われました。

なるほど、そう思うのかと考えながら、職員に、土壁を塗ってみるとおおらかさについてわかるかもしれないよと話をしました。

おおらかさを学ぶ一番の方法は、自然から学ぶことだと思います。土壁は竹と泥で作る、とてもシンプルな、自然素材で作るものです。自然素材は、工場などで作る人工の素材とは違い、デコボコで、あいまいです。竹は一本一本違う太さで、違う場所に節があり、うまく割れないものもあり、どれ一つとして同じものはありません。自然は人間にとって都合の良いものばかりではないのです。春は毛虫が出てきて、夏は暑い、秋は落ち葉が降ってきて、冬は寒い。そんな、都合が悪くても当たり前の事を、ありのままに受け入れるというおおらかさを学ぶには、人工物にかこまれた、便利な現代のくらしでは難しいかもしれません。

これからの時代には、おおらかさが必要になると思います。人口が減少する社会で、経済的にも労働力的にも厳しくなっていくと、社会にこれまでどおりのサービスを求めるこ

とはできなくなります。人工物でできあがったような、キッチリとしたルールやサービスを求めるのではなく、自然素材のような、デコボコであいまいなルールやサービスを受け入れる、おおらかさが社会に必要なになるでしょう。

人間にとって都合が良いことばかりではなく、それでいてぬくもりのある、土壁のようなおおらかさ。それが必要なのはルールやサービスに限りません。子育ても、人間関係も、人の生き方にもです。

～市長の話聞いて～

私はデザインについて考えることが好きで、特に良く練られた工業デザインが好きなのですが、市長の話される、おおらかさをモノやコトや、やり方に反映させるのは、新しいデザイン論なのだと感じました。例えば良いデザインの携帯電話というのは、単にユーザーが使いやすいだけでなく、製造しやすかったり、運送しやすかったり、リサイクルしやすかったりと、大きな視点から製品の取り巻く環境を総合的に捉えてデザインされています。土壁を皆で塗り、多少できばえや性能が悪くても受け入れて暮らす、作るだけでなく暮らしや生き方におおらかさを取り入れる建築物のデザインは、建築基準法や消防法といった関連法規を遵守しただけの建築物のデザインとは、また違った価値を持つはずで